

第2章

施策マネジメントシートによる評価

まちづくりの基本目標 2

心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり

1 学校教育の充実

第5期芽室町総合計画

政 策	2-1	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
施 策	└─	2-1-1 学校教育の充実
主 管 課	学校教育課	

2 社会教育の推進

第5期芽室町総合計画

政 策	2-1	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
施 策	└─	2-1-2 社会教育の推進[主管課]社会教育課
主 管 課	社会教育課	

3 地域文化の振興

第5期芽室町総合計画

政 策	2-2	地域文化の形成とスポーツ環境の充実
施 策	└─	2-2-1 地域文化の振興
主 管 課	社会教育課	

4 スポーツしやすい環境づくり

第5期芽室町総合計画

政 策	2-2	地域文化の形成とスポーツ環境の充実
施 策	└─	2-2-2 スポーツしやすい環境づくり
主 管 課	社会教育課	

施策番号	施策名	学校教育の充実	基本目標	政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
2-1-1	主 管 課	学校教育課	課長名	有澤 勝昭	内 線 511
	施策関係課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果
地域社会と連携しながら信頼される学校づくりを推進し、新しい時代を自ら切り拓くことができる心身豊かな人づくりを目指します。		児童生徒		・豊かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、未来を切り開くための資質・能力を身につける			児童生徒が社会に出たときに自立できる
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
①「授業の内容がわかる」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	75.8	74.0	76.0	80.0	
②「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	72.2	77.4	78.0	78.0	
③「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	85.7	87.7	89.0	90.0	
④							
成果指標設定の考え方	成果指標の設定は、全国学力・学習状況調査の結果を採用し、「豊かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む上で、3つの指標を設定した。 目標値の設定は、各成果指標共に5%程度の上昇を目指し設定した。						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費(千円)	907,458	895,658
人件費(業務量)	6.4412	7.0169

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	成果指標①は低下、②、③は上昇。⇒①の指標の内、小学生では77.1%であり、特別支援教育の充実や平成30年度からの小学校全学年35人以下学級編成の効果が伺え、全体としては、成果は変わらなかったと考える。
②2022年度の目標達成見込み	☒ 現状の取組の延長で目標は達成できる ☐ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①、②は、特別支援教育の充実や平成30年度からの小学校全学年35人以下学級編成による、個に応じた学習支援を継続することで目標達成を目指す。 ③は、芽室産食材を活用した「めむろまるごと給食」の実施、食物アレルギー等に対する代替食の提供、栄養教諭による全校全学級の食育指導を継続することで目標達成を目指す。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	①小学校・中学校施設維持管理事業 ②児童生徒支援事業 ③小学校・中学校教材・教具整備事業 ④学校給食管理運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「①」⇒各学校施設は老朽化が進んでいるため、令和2年3月に芽室町学校施設等長寿命化計画を策定した。今後、本計画に基づき長寿命化に向けた効率的な工事実施を進め、安心・安全・快適な教育環境の整備を図る。 ・「②」⇒特別な配慮や支援を必要とする児童生徒のため、教育活動指導助手や学校支援員を配置し、個に応じた学習支援を実施した。また、小学校全学年35人以下学級編成のため、教育活動指導助手を配置した。(平成30年度から小学校5・6年生へも拡大) ・「③」⇒学校におけるICT環境整備のため、令和元年度より、校務用・教育用コンピューターの計画的更新を開始した。(令和元年度は西中学校の校務用・教育用コンピューターを更新) ・「④」⇒芽室産食材を活用した「めむろまるごと給食」実施、食物アレルギー等に対する代替食の提供、栄養教諭による全校全学級の食育指導を実施した。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

A: 実現した

B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した

C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した

D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない

E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 ①学校施設などの老朽化対策や多様なニーズへの対応。(R1: 芽室町学校施設等長寿命化計画策定) / ②「社会に開かれた教育課程」の実現を重視した新学習指導要領への対応。(R2: 小学校、R3: 中学校で全面实施) / ③特別な支援や配慮を必要とする児童生徒の増加への対応。(R2: 地域コーディネーター複数配置) / ④「学校におけるICT環境整備方針(GIGAスクール構想)」への対応。 《今後の予測》 ①個別施設毎の長寿命化計画の策定に基づく計画的整備が必要である。 / ②「地域とともにある学校づくり」を推進するためコミュニティ・スクールの取組が必要である。 / ③地域コーディネーター複数配置、教育活動指導助手、学校支援員の充実による発達支援システムの推進が必要である。 / ④校舎内における通信環境の整備、児童生徒一人一台端末の配布が必要である。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	・「地域とともにある学校づくり」としてのコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進。(R1: 学校運営協議会制度開始) ・「GIGAスクール構想」の実現に向けたICT計画の策定。 ・食農教育の推進を踏まえた「めむろまるごと給食」の事業見直し。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

●新学習指導要領実施など教育環境の整備に向けた対応(児童生徒支援事業、小学校・中学校教材・教具整備事業) ⇒外国語活動・外国語科の推進に向けた英語指導助手の配置や、プログラミング教育等のためのICT教育環境(GIGAスクール構想)の整備 ⇒少人数学級の継続や発達支援システムと連携した特別支援教育の充実に向けた人員の増員 ●学校施設などの環境整備(小学校・中学校施設維持管理事業) ⇒芽室町学校施設等長寿命化計画に基づく老朽化改修と多様なニーズに対応した施設整備 ●学校給食の提供や食育指導に向けた体制の充実 ⇒児童生徒数の減少に伴う道教委配置の栄養教諭の減員に伴う対策と体制の充実及び食農教育の実施	
---	--

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	芽室町学校施設等長寿命化計画の策定、公務用・教育用コンピュータの計画的更新の開始などにより、学校教育環境の充実を図っており、策定時と比較して前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	GIGAスクール構想や食農教育など、新規事業が多く、広く町民に周知することが必要である。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	ICT教育の推進に向けて準備が進められ、学校教育環境の充実が図られていることから、策定時と比較して前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	・ICT教育について、協議の過程と結果が分かるように保護者に説明をもらいたい。 ・朝食をとることの大切さについて、子どもたちだけではなく、保護者に対しての働きかけも必要である。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した					

施策番号	施策名	外部意見		担当課
2-1-1	学校教育の 充実	意見	ICT教育について、協議の過程と結果が分かるように保護者に説明をしてもらいたい。	学校教育課
		対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
		対応事業名	教材・教具整備事業など	
		対応内容	ICT教育に係る保護者向けの文書を作成し、小中学生の児童生徒がいる世帯に全戸配布いたします。	
2-1-1	学校教育の 充実	意見	朝食をとることの大切さについて、子どもたちだけではなく、保護者に対しての働きかけも必要である。	学校教育課
		対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
		対応事業名	学校給食管理運営事業など	
		対応内容	栄養教諭が各学校で行っている食に関する指導で、規則正しい生活の中に朝食の大切さについて指導しております。また、毎月発行する給食だよりに朝食をとることの大切さについて定期的に掲載しており、今後についても継続して朝食の大切さについて啓発を行ってまいります。	

施策番号	2-1-2	施策名	社会教育の推進	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
		主 管 課	社会教育課	政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
		施策関係課	学校教育課	課長名	日下勝祐
				内 線	517

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
学習機会や場の提供など学習環境の充実を図るとともに、自発的な取組への支援を図ります。		町民	・「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学ぶことができる学習環境を整備する				町民一人ひとりが自ら進んで学習に取り組み、人と人とがふれあい、心豊かに充実した生涯を過ごせるまちづくり
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① 児童生徒の社会教育事業への参加者数	社会教育課調べ	人	1,313	881	300	1,190	
② 生涯学習の機会が充実していると思う町民の割合	住民意識調査	%	39.1	75.4	50.0	45.0	
③							
④							
成果指標設定の考え方	①児童生徒数の減少率を考慮するも参加率を維持するもの。 ②前期計画で達成できなかった40%の目標値を超える評価を目指すもの。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更)						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費(千円)	148,955	115,606
人件数(業務量)	3.4688	3.7783

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	①参加者減の要因は読書感想文コンクールの応募者数と子ども学習塾の内容見直しによるもの。コロナ対策による事業中止も含まれる。 ②教委事業のほか青少協やPTA連合会、子ども会など社会教育関係団体の活動が評価されたと認識しており、更なる事業充実に努める。
②2022年度の目標達成見込み	☒ 現状の取組の延長で目標は達成できる ☐ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	児童生徒の社会教育事業への参加については、今後コミュニティスクールにおける地域学校協働活動やジモト大学事業を積極的に推進することにより達成可能。 また、生涯学習機会の充実では、公民館や図書館講座、高齢者学級の実施のほか、社会教育関係団体の活動充実により達成可能。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	少年教育活動事業 地域子ども会育成連絡協議会支援事業 家庭教育学級活動支援事業 図書館ボランティアサークル活動支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	地域子ども会の活動では、令和元年度に新たな試みとして、商工会青年部が主催する「めむろ夏フェス」に専用ブースを設置し事業参加した。今後も各種団体との連携活動に積極的に参加することとしたい。 家庭教育学級の活動では、身近な課題を取り上げ実践的な勉強会として「めむろ家庭教育学級講演会」を開催し、学習機会と意見交換の場の確保に努めた。 図書館事業では、時事問題に対して提供できる図書の特別提示を行うとともに、図書館内外でのイベント開催により読書推進に努めた。 また、ボランティアの方々の継続支援により各種事業が安定的に実施できた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A:実現した
 B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
 C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した
 D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない
 E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・生涯学習の概念である「いつでも・どこでも・誰でも」自由に学べる学習環境の整備 →学習形態の多様化に対応するための住民ニーズに沿った事業検討(各種講座開催など)。 →高齢者学級の学習プログラムの見直しや通園のための交通手段の確保。 ・子ども、子ども会活動の減少 →広域活動や各種団体活動との連携による活動機会の確保と充実。 ・コミュニティスクールの取組による地域教育力の向上。学校・家庭・地域・行政による連携強化と事業実施。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	・コミュニティスクールへの積極的な住民参加。 ・子ども会活動の多様化(単位会の減少や役員のなり手不足解消のため)。 ・公民館の施設充実(避難所としての機能強化)。 ・図書館のエアコン空調の設置。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

・社会教育推進中期計画(H31-R4)の着実な推進 →コミュニティスクールの推進。地域学校協働活動の推進による学校・家庭・地域・行政の連携強化。 →ジモト大学事業の実施。持続可能な地域社会の創り手育成のため、コミュニティスクール活動と連携し実施。 →高齢者学級の学習プログラムの随時見直しと、通園のための交通手段の確保。 →ネットトラブル等に対する青少年健全育成として、「芽室町スマホ・ケータイ・ネット親子のルール宣言」の更なる周知活動。 ・社会教育施設の有効活用と維持管理 →公民館の機能整理(教育委員会事務所移転後) →図書館機能の再点検(図書、視聴覚備品等のあり方) →かつこう、ねんりんの運営方法と維持管理。
--

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

		A	B	C	D	E
評価	住民意識調査の選択項目減により、成果指標が大きく増加したが、社会教育関係団体の活動充実も指標増加の一因と考えられることから、策定時と比較して前進したと評価する。			○		
今後の取組に対する意見	コミュニティスクールやジモト大学など、新規事業について広く町民に周知しながら進めてもらいたい。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

		A	B	C	D	E
評価	ICT教育の推進に向けて準備が進められていることから、策定時と比較して前進したと評価する。			○		
今後の取組に対する意見	・図書館のWi-Fi整備について、できるだけ早く整備してもらいたい。 ・住民意識調査の生涯学習に関する設問では、「生涯学習」とは何かを記載した方がよい。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した				

施策番号 2-2-1	施策名 地域文化の振興	基本目標 心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
	主 管 課 社会教育課	政策名 地域文化の形成とスポーツ環境の充実
	施策関係課 建設都市整備課	課長名 日下勝祐
		内 線 517

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果
地域における文化活動への参加を促進するとともに、文化財などの収集・活用をすすめます。		町民		・文化・芸術を身近に感じさせる地域づくり			心豊かに暮らせるまち
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① 文化活動がしやすいと感じる町民の割合	住民意識調査	%	42.2	74.3	50.0	45.0	
② 地域文化活動への参加者数	社会教育課調べ	人	1,196	1,220	1,000	960	
③							
④							
成果指標 設定の考え方	①前期計画で得られなかった評価(45%超)を目標値としたもの。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更) ②現状の加速する減少率を改善し下げ止まりの傾向を示すもの。						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費(千円)	12,224	14,003
人件数(業務量)	0.6589	0.5721

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	☒ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	①芸術鑑賞会での町民による実行委員会組織の活動などに評価をいただいたと認識している。 ②町民文化展などの事業については例年同様の参加者数が確保できた。
②2022年度の目標達成見込み	☒ 現状の取組の延長で目標は達成できる ☐ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	現在の町民参加による芸術鑑賞会の企画・実施の取組のほか、文化活動の確保とその実施にあたり、これまでに以上に町民参加を実現することで達成可能。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	芸術鑑賞会等開催事業 芸術・文化振興支援事業 ふるさと歴史観運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・町民との連携による文化芸術活動の充実 芸術鑑賞会等開催事業では、町民参加による実行委員会組織による企画・運営により、幅広い視点ときめ細かな運営が鑑賞会参加者からの高い評価につながっている。 ・児童生徒の文化芸術振興 全国全道大会出場支援や芸術鑑賞支援は、文化活動がしやすいと感じる町民の割合への貢献度が高い。 ・多様化する文化活動への支援の在り方を再考し、文化団体会員の減少、指導者、後継者の確保という課題に対し解決策を講じていく必要がある。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A: 実現した
 B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した
 C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した
 D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない
 E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・芸術鑑賞会の開催は、町民参加による内容検討委員会から発展した実行委員会組織として企画・運営を担っていただき、高評価を得ていることから、継続実施として内容充実努める。 ・文化協会会員の高齢化と会員の減少については、引き続き協会会員との意見交換をとおして、指導者の確保、後継者不足への対応、今後の事業実施内容の見直しなど継続協議する。 ・吹奏楽活動への支援を充実するため、新たな取組みを検討する必要がある。 ・フレンドリーコンサートの充実と多くの町民に鑑賞していただく工夫が求められる。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・文化協会の活動に要する施設利用料の減免要請。

5. 施策の成果向上のための具体的な取組み(今後強化すべき取組み、新たに実施すべき取組み)

・芸術鑑賞会の継続開催。幅広い視点と町民ニーズの多様化に応じた企画・運営のための実行委員会組織の充実。 ・「一流を見て、聴いて、学ぶ」観点から、鑑賞会のほか、技術や取組姿勢などについて学ぶクリニックの開催。 ・文化芸術活動に対する施設利用料も含めた社会教育施設利用料のあり方検討。 ・指定管理者と連携した公民館講座の充実。 ・文化活動に必要な施設備品の計画的な整備。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

		A	B	C	D	E
評価	住民意識調査の選択項目減により、成果指標が大きく増加したが、地域文化活動への参加者数が策定時と比べ増えており、目標値をクリアしていることから、策定時と比較して前進したと評価する。			○		
今後の取組に対する意見	文化芸術鑑賞については、鑑賞会のみではなくクリニックの開催など「一流を見て、聴いて、学ぶ」視点での取組を進めてもらいたい。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

		A	B	C	D	E
評価	芸術鑑賞会を実行委員会形式で実施することは、町民の声を反映できるため理想的な取組みであり、策定時と比較して前進したと評価する。			○		
今後の取組に対する意見	・文化協会に入るメリットや魅力を作るなど、加入団体が増えるように工夫するべきである。 ・公民館大ホールを、もっと気軽に利用しやすくなるような仕組みを考えてはどうか。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した				

施策番号 2-2-2	施策名 スポーツしやすい環境づくり	基本目標 心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
		政策名 地域文化の形成とスポーツ環境の充実
	主管課 社会教育課	課長名 日下勝祐
	施策関係課	内線 517

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果
町民がいつでも気軽に自由にスポーツできる環境づくりをすすめます。		町民		・いつでも気軽に自由にスポーツできるようにする			健康で明るいまちづくりを実現する
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① スポーツしやすい環境であると思う町民の割合	住民意識調査	%	92.2	83.6	50.0	95.0	
② 芽室町内の体育施設利用者数	利用実績	人/年	177,638	165,626	90,000	180,000	
③ 高校生以下の初心者がゲートボールを体験できる機会	社会教育課調べ(教室・講座数)	回/年	34	33	10	46	
④							
成果指標設定の考え方	①住民満足度として非常に高い評価を得る数値とするもの。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更) ②前期計画で達成できなかった数値を目標とするもの。 ③事業機会を30%UPで推進しようとするもの。						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費(千円)	262,925	202,831
人件数(業務量)	1.8149	1.9441

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	☐ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☒ 成果は低下した	想定される理由	各施設における修繕作業の増により利用者へ不便をおかけした期間が複数あったこと。
②2022年度の目標達成見込み	☒ 現状の取組の延長で目標は達成できる ☐ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	H28台風被害からの復旧が、美生川河川敷PG場の再開をもって、野球場、サッカー場とともに一定の作業が終了することから、スポーツしやすい環境づくりに寄与するもの。 また、民間団体との連携事業の充実、町民参加機会を確保するとともに町民満足度に貢献するもの。 社会体育施設再整備構想に基づき体育施設の環境整備を推進すること。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	各種大会出場支援事業 ゲートボール普及活動事業 チャレンジデー実施事業 スポーツ人材強化・育成事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・民間団体との連携事業、特に、北海道十勝スカイアース、北海道日本ハムファイターズとの協定事業に対する町民の期待度は高く、すでに実施した各種事業への参加者からの評価、満足度も高いといえる。引き続き、「一流を見て、聴いて、学ぶ」貴重な機会を有効に活用する。協定事業とは別に、ヴォレアス北海道によるバレーボール教室も開催したが、今後も継続して様々な競技における事業を実施していくこととしたい。 ・各種大会出場の支援は継続実施するが、見直しも含め内容を検討する。 ・ゲートボールの若年世代への普及については、これまでの支援事業の課題を踏まえ今後の方向性を示す必要がある。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

A:実現した

B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した

D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない

E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・社会体育再施設整備構想における計画的な施設整備、特にプール建替事業が急務。 ・民間団体等との事業連携強化。「一流を見て、聴いて、学ぶ」ための町民参加事業の実施。 ・ゲートボール競技人口の減少。若年層や現役世代社会人に対する普及活動の強化。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・プールの早期建替要望。 ・社会体育施設再整備構想における計画的な施設整備。 ・総合体育館トレーニング機能の充実。 ・体育施設周辺環境整備、駐車場、トイレ、支障木。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

・社会体育施設再整備構想における計画的な施設整備。 →プール建替に関する作業の適正実施。 →施設機能の維持に要する計画的修繕。 ・「一流を見て、聴いて、学ぶ」機会の確保と町民参加事業の充実。 ・ゲートボールは、日本ゲートボール連合が今後打ち出す「再生プラン」を踏まえ、一層の普及促進を図る。 ・本町の「スポーツしやすい環境づくり」と「少年団活動における指導者確保」などについて、総合型地域スポーツクラブの調査・研究と指導者派遣について検討する。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価		A	B	C	D	E
評価	成果指標は策定時より下回っているが、北海道十勝スカイアースや北海道日本ハムファイターズなどの民間団体との協定・連携により各種スポーツ教室を開催し、一流のスポーツに触れる機会が提供されていることから、スポーツしやすい環境づくりが図られていると評価する。			○		
今後の取組に対する意見	ハード事業には限界があるため、総合型地域スポーツクラブなどのような、ソフト事業について、町民を巻き込んだ検討が必要ではないか。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価		A	B	C	D	E
評価	ソフト事業が充実しており、スポーツしやすい環境づくりが図られていると評価する。			○		
今後の取組に対する意見	継続して事業を実施してもらいたい。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した				

施策番号	施策名	外部意見		担当課
2-1-2	社会教育の推進	意見	図書館のWi-Fi整備について、できるだけ早く整備してもらいたい。	社会教育課
		対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
		対応事業名	図書館維持管理事業	
		対応内容	Wifi整備に向け、調整を進めます。	
2-1-2	社会教育の推進	意見	住民意識調査の生涯学習に関する設問では、「生涯学習」とは何かを記載した方が良い。	社会教育課
		対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
		対応事業名		
		対応内容	ご意見のとおり対応いたします。	
2-2-1	地域文化の振興	意見	文化協会に入るメリットや魅力を作るなど、加入団体が増えるように工夫するべきである。	社会教育課
		対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
		対応事業名	文化・芸術振興支援事業	
		対応内容	文化協会と意見交換を行い、支援できる方策を検討します。	
2-2-1	地域文化の振興	意見	公民館大ホールを、もっと気軽に利用しやすくなるような仕組みを考えてはどうか。	社会教育課
		対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
		対応事業名	公民館維持管理事業	
		対応内容	現在、大ホールはステージ部分の貸し出しなどを行い、ステージ練習だけ行うことも可能です。今後、利用者の意見を確認し検討を行います。	

